

## ■『早期帰村プラン』－福島県飯舘村－の訴えを聞いて

「避難＝くらしの崩壊」を防ぐ工夫を村の裁量で  
菅野村長からは、冒頭「までいライフ」に至ったむらづくりの経過や思いが語られました。そのうえで、「避難＝くらしの崩壊」であり、「全村避難」は苦渋の選択であったことが報告されました。村では帰村までの生活を支え、思いをつなぐために「早期帰村プラン」を策定し、避難中の仕事づくりやコミュニティの維持に奔走しているとのことでした。また、国の指示により「全村避難」に至ったが、くらしを崩壊させないための工夫を村の裁量でできるような支援が必要だとの訴えがありました。



### もの言わぬものの悲しみ

佐野ハツノさんは、畜産や葉タバコ栽培などを手掛ける専業農家であるとともに「までいライフ」を実践する農家民宿「どうげ」を営む女性起業家でもあります。佐野さんからは、避難のために3ヶ所にわかれてしまった家族のこと、別の場所での民宿経営は断念したこと、「寿命で死ぬんだ」と言って避難に応じてくれない両親のこと、牛や飼い犬など物言わぬものの悲しみにむらぎ包まれていることなど涙ながらの報告をいただきました。佐野さんのお話からは、避難生活の困難さがひしひしと伝わってきました。



### 粘土の挙動に注意せよ

溝口先生からは、土壌学の基礎をやさしく解説いただいた後に、粘土と放射性セシウムが非常に強い結びつきにあることを解説いただきました。ここから、除染の方法を検討するためには、粘土の挙動を把握することがまず重要であるとの提言をいただきました。詳しくは、「みぞらボ」のHPをご覧ください。また、帰村を実現するためには、土壌学、農業土木学、農村計画学以外にも、多様な専門家の連携が必要との呼びかけがありました。



### までいライフとは？

冒頭、菅野村長から「までいライフ」を掲げるに至った経緯や思いが語られました。「までい」とは、手間ひま惜まず、丁寧に心をこめて、つましくなどの方言であり、「までいライフ」は飯舘流スローライフ、オンリーワンのむらづくりを実践するための合言葉です。

